

1月28日～2月3日 商品検査実績

●微生物検査 180 検体

店舗新商品検査の結果、水産 2 商品で 1 商品が一般生菌数にて、1 商品が一般生菌数と大腸菌群にて自主基準不適合となったことから、工程管理を見直して再検査を実施しました。再検査でも同様の結果となったことから、取り扱いをしないこととしました。

●理化学検査 63 検体

食品添加物検査	30 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	外部検査機関で 5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	11 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今週は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施しておりません。
米鮮度判定	今週は実施しておりません。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルギー検査	今週は実施しておりません。	
ヒスタミン検査	8 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
クドア (養殖ヒラメ寄生虫)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査 (スペクトロメータ※①)	9 検体 (野菜 3 検体、果物 3 検体、水産 3 検体) 実施しました。全て検出下限値 (約 20Bq/kg) 以下となりました。	
放射性物質検査 (サーベイメータ※②)	今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：遮蔽体無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定

組合員さんの

想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。



組合員さん VOICE

島根県産天然茎わかめと野菜のスープ10食((株)魚の屋)を、コープで取り扱ってほしいので、リクエストします。

実現しました

商品のリクエストをいただきありがとうございます。ご要望いただきました商品について検討した結果、2月2回に案内できることになりました。この商品は、島

根県産の茎わかめと、国産の野菜(キャベツ、にんじん、玉ねぎ、ねぎ)を使用したスープで、お湯を注ぐだけでお召し上がりいただけます。この機会にぜひご利用をお願いいたします。



今月のお知らせ 食物アレルギーについて



細菌やウイルスが体内に入った際に、これらを異物と認識し、体を守る免疫という働きがあります。食物アレルギーは、人によっては、摂取した食べものに含まれている、特定のたんぱく質が異物と認識され、その異物を排除するための反応が起きることで、くしゃみやせき、体のかゆみ、じんましん、唇や口の中・のど・まぶたが腫れるなどの症状や、意識喪失、血圧の低下、呼吸困難などの重篤な症状に繋がることもあります。

食べものに含まれるたんぱく質がアレルギーの原因になるのですが、特に「卵・乳・小麦・落花生・えび・かに・そば」は、患者数や症状の重さから、加工食品の原材料に使用された場合は、必ず表示することが決められています。

原因となる食べものを食べないと、食物アレルギーは起きないため、原因となる食べものを摂取しないよう、加工食品は表示をよく確認することが重要です。



商品検査レポート 12月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

微生物検査	検査数 929	特に問題となる商品はありませんでした。									
理化学検査	検査数 380	主な検査項目	食品添加物 71	簡易農薬 60	畜種判定 6	残留農薬 (外務省基準等へ従順) 5	精米品種判定 (外務省基準等へ従順) 7	カビ毒 6	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。		
放射性物質検査 (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	検査数 70	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日配	飲料	加工食品	検査の結果、全て検出下限値(20Bq/kg)以下でした。
放射性物質検査 (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	検査数 15	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。						

※①NaI(エヌイーアイ)シンチレーションスペクトロメータ:遠蔵体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaIシンチレーションサーベイメータ:遠蔵体無しを持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線や宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

